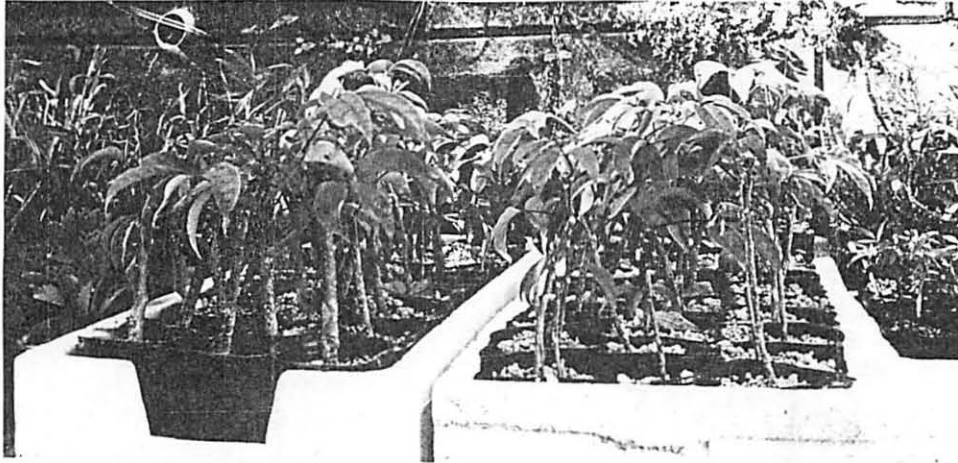


ツマベニチョウだより (第3号)

◎ ギョボクの苗が順調に育っています。

長渡達夫様ほか9名の方々のお陰で565本のギョボクの挿穂を、上妻隆康様ほか4名の皆様に挿し木していただきましたことは前号でお知らせしましたが、その後、井上正光様のお力添えで結局611本の挿し木を行うことが出来ました。そして約半数の300本の苗木がすくすくと育ち、大部分はポット鉢に移植を終わりました。(下の写真をご覧ください。なおこれは上妻様に育てていただいているものです)。



これから来襲する台風などの心配はありますが、育苗中の皆様のなみなみならぬご努力で、秋にはそれぞれ鶴戸、宮浦地区や南郷の大島に定植して貰えるものと楽しみです。

◎ 日南市宮浦地区に第1回目のギョボクの寄贈を行いました。

株式会社サンメッセ日南が、ランタナの苗110本を植えられるのを機会に7月12日、拙宅で育てた大小31本のギョボクの苗木を寄贈しました。秋には自宅の残りのほかに、上妻様や井崎様、中村様や和田様のお宅で育ったギョボクの苗木を次々に寄贈出来るものと思います。(苗木の受け入れについては、前述の地区の有志の方々が力強い協力態勢をとって下さいますので何の心配もありません。)

◎ 鶴戸神宮の山で何頭ものツマベニチョウを見ました。

ギョボクを寄贈したついでに鶴戸神宮の山に行ってみましたところ、4ヵ所で延べ10数頭ものツマベニチョウを近々と見る事が出来ました。そして何と2頭のメスは眼前で産卵行動を演じてくれました。さらに帰りの車を待っていた旧参道のガソリンスタンドの前では、民家の庭先のハイビスカスの花から花へと、元気のよいオス1頭がしばらく吸蜜して行きました。それからまた、森の中では大きなギョボクの木が房状の白い花をいっぱい咲かせていて、アゲハチョウなどが吸蜜に訪れていました。(実が生った頃、鶴戸神宮にお願いして種子用にいただきたいと思いました。)

このように多数のツマベニチョウを目にすることが出来たのは、たまたま時間帯が蝶の活動する8時半から10時半までであったからかもしれません。しかし今までにこんなに間近に、またオス、メスを同数くらい見たことはなく、極めて明るい希望を持ちました。

噴水の水柱は高ければ高いほど飛沫が遠くへ飛びます。いま生息している鶴戸神宮や大島のツマベニチョウの数が増えれば増える程、周辺への広がりが期待出来ると、いよいよ希望が膨らみました。